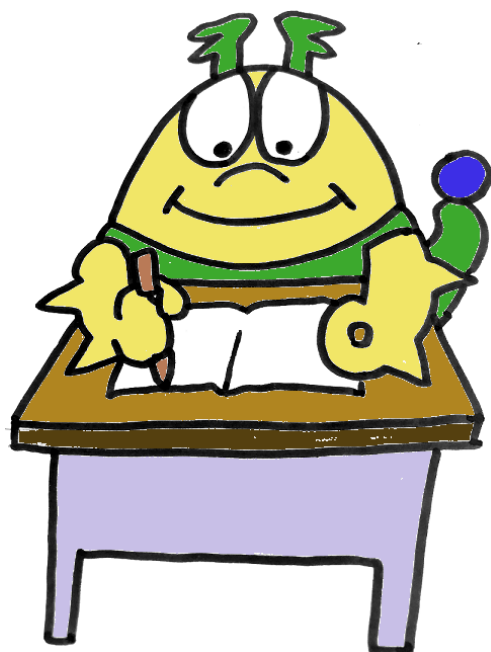


令和2年度 手作り教材集

- 1、 一人で支度できるかな？(日常生活)
- 2、 ボタン・ホック留め練習(日常生活)
- 3、 今日の予定しっかり伝えます！(日常生活)
- 4、 一人でできるかなカレンダー(日常生活)
- 5、 夏祭りの屋台(生活単元学習)
- 6、 枠作り 補助具(生活単元学習)
- 7、 魚釣りゲーム(生活単元学習)
- 8、 キャンプファイヤーをしよう(生活単元学習)
- 9、 L字にネジを打ちこみやすくする補助具(生活単元学習)
- 10、 のびて、ちちんでマジックハンド(生活単元学習)
- 11、 大きい型はめ(ことば・かず)
- 12、 足し算計算表(ことば・かず)
- 13、 切って貼って手作りパズル(ことば・かず)
- 14、 二語文の構成(ことば・かず)
- 15、 どうぶつかくれんぼ(ことば・かず)
- 16、 2～6ピースのパズル(ことば・かず)
- 17、 ひらがなをかこう(ことば・かず)
- 18、 関連する絵を答えよう(ことば・かず)
- 19、 スーパーひろつかへ ようこそ(自立活動)



- 20、 カードと洗濯ばさみの弁別(自立活動)
- 21、 箱から布を引き抜こう(自立活動)
- 22、 可動式ボード(自立活動)
- 23、 どんなかたちかな？(自立活動)
- 24、 はらぺこあおむしで紐通し練習(自立活動)
- 25、 とんぼのめがね～のぞいてみよう～(音楽)
- 26、 みんなでバースディを祝おう(学活)



教材名

一人で支度できるかな？（手順表）

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
＜曜日と朝・帰りごとのシート 全4枚＞  ＜花丸部分＞ 	（ねらい） ・児童が荷物整理の手順を覚えて、一人で取り組めるようになってほしいと思い、実態に合わせて手順表を作成した。 （使い方） ① 今日の曜日のシートを取り出し、手順表に沿って取り組む。 ② 一つ終わるごとに、左側にある花丸のイラストを貼っていく。 ③ 全部が花丸になったらおしまい。 （工夫点） ・曜日や朝、帰りで順番や持ち物が変わってくるので、項目別に使用できるようにしたこと。 ・着替えの手順表でも活用し、花丸になったら次が定着するようにしたこと。 ・実態に合わせて、項目ごとにばらばらにして、係の仕事やお手紙など臨機応変に付け足せるようにしたこと。
＜項目別になっているもの＞ 	（使用感・改善点） ・初めのうちは隣で一緒に取り組んでいた児童も、慣れてくると一人で指差ししながら取り組んだり、花丸にしたあとに「おしまい」と言えるようになったりした。 ・一人で取り組める児童は、曜日ごとの違いを覚えたり、やりやすい順番を考えたりして取り組むことができた。 ＜活用できそうな教科領域および場面＞ ・荷物整理 ・各教科の手順など

教材名

ボタン・ホック留め練習

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点

A



B



C



(ねらい)

- ・ボタンの留め外しができる。→A
- ・ホックの留め外しができる。→B
- ・ボタンとホックの留め外しができる。→C
- ・よく見て取り組むことができる。

(使い方)

- A ① マジックテープで止める。
② 大きいボタンを留める。

- B ① ホックで留める。

- C ① ホックとボタン（目）を留める。

(工夫点)

- ・大きなボタンだけ、ホックだけ、ボタンとホックと段階に合わせて活用できるように製作した。
- ・大きなボタンを留めやすいよう、マジックテープを貼った。
- ・机上でできる大きさにした。

(使用感・改善点)

- ・本校のマスコットキャラクターである「ニヨポン」を教材にしたことで児童が親しみながら学習することができた。
- ・児童の実態、段階に合わせて活用することができた。
- ・1つの教材で、できることがたくさんあるようにしたが、裏面が平らにはならないため、手触りが気になる児童がいた。
- ・ボタンの大きさを変えることで、より生活に活かせると感じた。
- ・Bのホックをつける際の目印となるようなマークがあるとよかった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・国語・算数
- ・個別課題
- ・自立活動

教材名

今日の予定しっかり伝えます！

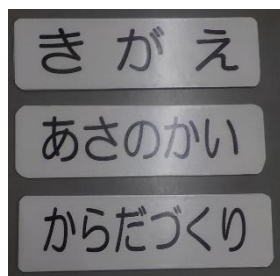
教材等の写真添付



<イラストカード>

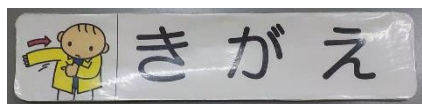


<文字カード>



<リメイク前>

イラストカードと文字カードが一枚になっていた



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- ・予定カードのイラストと文字が一緒のものを昨年度から使用していたため今年度も同じものを使用していたが、発語のない児童が日直をする際に役割が少なく伝えることが難しかったため、伝えられる方法を考え、イラストと文字を分けた予定カードを作成した。

(使い方)

- ・朝の会の「きょうのよてい」で日直が黒板にカードを貼りながら学級の友達に1日の予定を伝える。

(工夫点)

- ・馴染みのあるものなので抵抗感がなく使用できるように、今まで使っていたカードを少し工夫して活用した。

- ・イラストと文字を分けることで、実態に応じて使い方の幅が広がる。

- ① 貼ってある文字カードを教師が読み、イラストカードを貼る。
- ② イラストを見て文字カードを貼る。
- ③ 予定をきいて、イラストカードと文字カードを貼る。
- ④ 自分で日課表を見ながら、イラストカードと文字カードを貼る。

(使用感・改善点)

- ・文字とイラストを分けただけで日直の児童の活動の幅が広がった。
- ・文字カードを一文字ずつ分け、日直の児童の朝の課題で活用できるとよい。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・ことば・かず
- ・自立活動

教材名

一人のできるかなカレンダー

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(ねらい)

- ・カレンダー係として一人で日付カードを貼れるようにする。
- ・日付や曜日に関心を持つ。
- ・「きのう」「きょう」「あした」の関係性を理解する。

(使い方)

- ・朝の会で黒板に今日の日付を貼り、「きのう、きょう、あした」のカードを動かす。
- ・帰りの会で明日の日付と曜日を確認する。
- ・月が替わった時に並び替える。

(工夫点)

- ・教室内の日付カードとカレンダーの枠の大きさを統一にしたことにより、カレンダーを意識しながら今日の日付を確認することができる。
- ・「きのう」「きょう」「あした」のカードを1つにしたことで前後の関連性がわかりやすくなった。
- ・大きなホワイトボードに貼り付けているため、月ごとに日付カードの配置を動かすことが可能。
- ・実態に応じて使用できるように「おととい」「あさって」カードも用意しておく。

(使用感・改善点)

- ・黒板の日付スペースの近くに取り付けたことで、朝の会や帰りの会に児童が積極的に日付を意識しながら取り組むことができた。
- ・月が替わるときに、正しい位置で数字を並び替える練習にもなってよかった。
- ・場所が不安定でホワイトボードが倒れてしまうことがあったので、安定した場所に固定する必要がある。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・朝の会、帰りの会
- ・ことば・かず

教材名

夏祭りの屋台

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点

<屋台>



<夏祭りで使用している様子>



(ねらい)

- ・祭りの雰囲気を感じながら活動に取り組めるよう作成した。

(使い方)

- ・「夏祭りをしよう!」の単元で「わなげ」や「的あて」、「かき氷屋」の屋台として使用した。

(工夫点)

- ・学級にあるテレビ台を使用し、台が安定するように木材で作った屋台を打ち付けて設置した。
- ・キャスターがついているため移動ができ、高さも児童の目線の高さにあっている。
- ・看板を貼り付けられる場所を作り、看板を変えていろいろなものに代用できる。

(使用感・改善点)

- ・大きいものなので児童にもわかりやすく、祭りの雰囲気がでていた。
- ・屋台の高さが6年生の児童には合っていたため、使いやすかった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・学活
- ・ことば・かず

教材名

枠作り 補助具

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
   	(ねらい) ・一人で組み立てることができる。 (使い方) ①土台の1番から4番まで順に木材をはめ込む。 ②はめ込んだ木材を、ねじとドライバーを使って固定する。 ・各木材2本ずつねじを打ち込む。 ③1番から4番までの木材にねじを打ち込んだら、枠から取り外す。 ④枠に紙を貼り付けて、水鉄砲であてる的にする。 (工夫点) ・置く順番がわかるように番号をかいしておく。 ・置いた木材がずれないように、枠の大きさにぴったりと合うように木材を用意する。 ・安全に取り組めるように、木材は面取りをしておく。 (使用感、改善点) ・材料となる木材が細く割れてしまうことがあったため、事前に下穴をあけておくべきだった。 <活用できそうな教科領域および場面> ・図工

教材名

魚釣りゲーム

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(ねらい)

- ・楽しみながら手と目の協応に取り組む。

(使い方)

- ① 好きな色の竿を選ぶ。
- ② 簡易プールの外から竿を垂らして魚を釣る。
- ③ 紐先の磁石を竿先につけて竿を竿入れに片付ける。
- ④ 釣った魚を簡易プールに戻す。

(工夫点)

- ・他の竿の紐が絡まないように、竿先にも磁石を付けて収納できるようにした。
- ・持ち手に棘が刺さらないように、テープを巻いた。
- ・自分の竿の紐がわかるように紐と竿の持ち手のテープを同じ色にした。
- ・紐の付いた竿の扱いが難しい児童用に、棒の先端に磁石を付けた竿も用意した。
- ・魚は実物のように両面印刷にした。
- ・魚はクリップを複数付けて釣りやすいようにした。

(使用感・改善点)

- ・魚のぬいぐるみも用意したが、重すぎて一人では釣り上げられず複数で協力し合っていた。



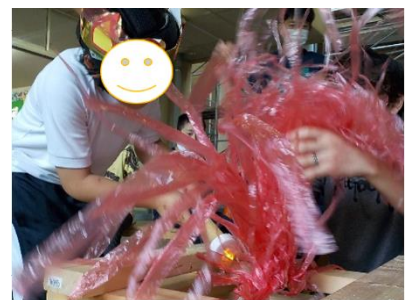
<活用できそうな教科領域および場面>

- ・学活

教材名

キャンプファイヤーをしよう

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- ①キャンプファイヤーの疑似体験をする。
- ②炎の動きに着目することができる。
- ③キャンプファイヤーの楽しさを味わうことができる。

(使い方)

- ①2×4の木材の骨組みの中にサーキュレーターを設置する。
- ②サーキュレーターのスイッチを押す。
- ③サーキュレーターの風でスズランテープが炎のようになびく。
- ④みんなで囲んでダンス。

(工夫)

- ・本物に近づけるよう木材を使い、臨場感を出した。
- ・木材を横に積み上げることで中のサーキュレーターが見えにくいようにした。
- ・学年の人数が多いためみんなで囲える大きさの物を作った。
- ・スズランテープを使い、炎を再現した。

(使用感・改善点)

- ・木材を何本も積み重ねたため、持ち運びには成人男性2人で運ぶ必要がある。
- ・予想していた炎の量より少なく、風量を強くするか、スズランテープ以外の素材を使うかの改善が必要だと感じた。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・学活

教材名

L字にネジを打ちこみやすくする補助具

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



①

(ねらい)

- ・一人で木材を L 字に合わせてすれないように押さえつつ、ネジを真横からまっすぐ打つという工程が難しく、「誰でも一人で L 字に組み立て、ねじを打ちやすくしたい」と考え、補助具を製作した。

(使い方)

- ①木材 A を立て向きに入れる。



②

- ②木材 B を横向きに入れる。



③

- ③印をつけた穴にねじを打ち込み L 字に完成。

(工夫点)

- ①木材を立てて維持できるように四方に端材を打ち込み、はめ込むようにした。
 - ②木材を横向きに重ねられるように、立て向きの木材の高さと同じ高さの端材を打ち込んだ。
 - ③ネジを打ち込んだ後、取り出しやすいように取り出す部分の端材をなくした。
- ・ネジを打ち込む高さを調整できるように、移動しやすいサイズにした。

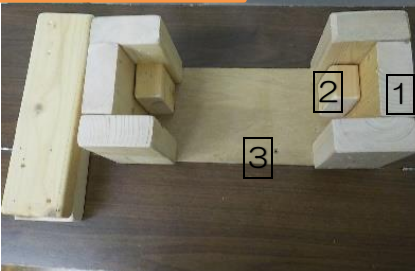
打ちこみ完成



(使用感・改善点)

- ・木材の反り具合によりはめ込むときにきつく感じることもあるので、数ミリ余裕をもたせてもよかった。

上から見た補助具



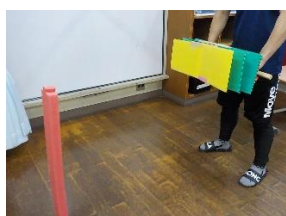
<活用できそうな教科領域および場面>

- ・図工

教材名

のびて、ちぢんでマジックハンド

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- ・腕を開いたり閉じたりしてマジックハンドを操作することができる。
- ・的をよく見て倒すことができる。

(使い方)

- ①持ち手を開いたり、閉じたりして前にある的を狙って倒す。
- ②自分で持って目の前の的を狙ったり、力が弱い子どもは、机の上にマジックハンドを置いて目の前の的を狙ったりする。

(工夫点)

- ・見た目が大きい教材なので、見た目のインパクトが出るよう工夫した。
- ・耐久性と、自分で持って操作ができやすいように、プラスチック段ボールを使うようにした。
- ・児童机を用意し、力が弱い子どもでも操作しやすいようにした。
- ・持ち手が木なので、ささくれがないよう削り、持ちやすいような太さにした。
- ・先端が平面の的に当たりやすいように、先端を少し曲げるように工夫した。

(使用感・改善点)

○使用感

- ・最初は操作の仕方を理解していなかったが、使っていく内に伸びたり縮んだりの操作の手順がわかってスムーズ操作ができるようになった。
- ・最初は、手元を見て操作していたが、回数を重ねるごとに的を見ながら操作することができるようになった。

○改善点

- ・サイズが1サイズしかなかったので、様々な大きさのサイズを作ればよかった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・ことば、かず
- ・自立活動

教材名

大きい型はめ

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点

はめる前



はめた後



下絵はラミネートで透けるようになっている。

（ねらい）

- ・絵や形を見比べて、型はめをすることができる。
- ・物や形の名称にも触れながら学習することができる。

（使い方）

- ①絵本「くだもの ぱっくん」に出てくる果物なので、絵本を読みながらでも取り組むことができる。
- ②ホワイトボードに枠を貼り、児童が型はめをする。
- ③提示された枠を覚えて、離れた所にある型を取ってくる記憶教材としても使用できる。

※全6種類あるので、2択～6択の中で選べるように使うこともできる

（工夫点）

- ・ホワイトボードに貼れるようにしたことで、他の児童からでも取り組んでいる姿を見ることができる。
- ・下絵をラミネートで透けるようにしてあるので、下絵で使う色を変えることができる。
- ・型はめを大きくしたことで、手先が不器用な児童でも簡単にはめることができる。

（使用感・改善点）

- ・ホワイトボードに貼ると、垂直の動作（貼り付ける）が難しい児童もいた
- ・形を見比べてほしい場合でも、果物が貼ってあるので、絵で判断できてしまう。

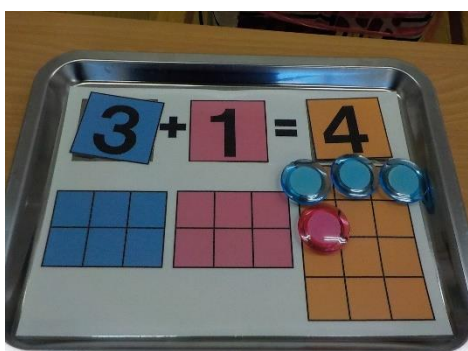
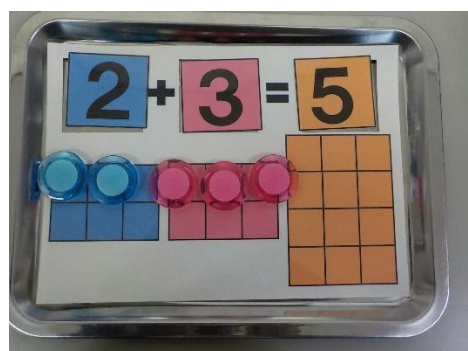
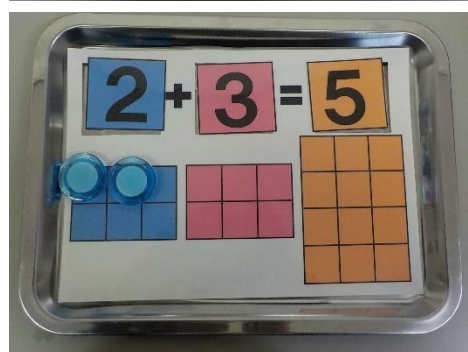
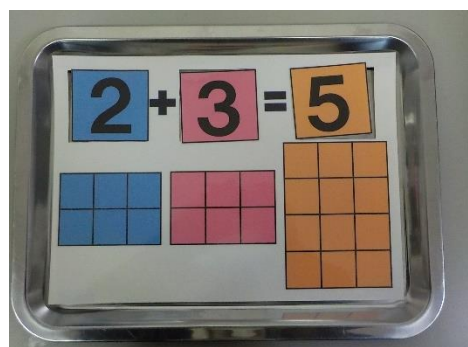
<活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動

教材名

足し算計算表

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- 和が一桁の計算で数字を付け替えることで、足し算の学習に活用することができる。

(使い方)

- ⑤ 数字カードを貼る(青、ピンク)。
- ⑥ 青の数字に対応した数の磁石を枠に置く。
- ⑦ ピンクの数字に対応した磁石を枠に置く。
- ⑧ 答えをオレンジの数字を入れて、対応した磁石を置く。

(工夫点)

- 数字の外枠に色を付けて、視覚的に見やすくした。
- 数字の下に丸磁石を貼って数字の対応できるようにした。
- ステンレストレーを使い、磁石で貼り付くようにした。

(使用感・改善点)

- 数字を書き入れることができるようにしておけばよかった。
- 数字と同じ数のドットを入れてもよかった。
- 枠に収まる磁石の大きさにするか枠を広げて磁石が入るようにすればよかった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- 日常生活の指導(朝、帰りの課題学習)

教材名

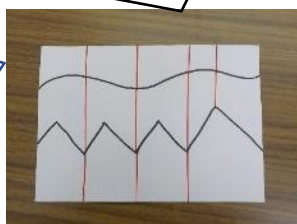
切って貼って手作りパズル

教材等の写真添付



黒線（波線・ぎざぎざ）

1



赤線（縦の直



教材の紹介や工夫の要点

（ねらい）

- ・オリジナルのおもちゃを作ることによって愛着を持ったり、作ったものを大事に使ったりすることができる。
- ・パズルを作って楽しむことができる。

（使い方・作り方）

- ①最初にバイクの紙の裏に糊を塗り、八つ切画用紙を半分にしたサイズの白画用紙の上に貼り付ける。
- ②白画用紙の裏に書いてある線に沿って、黒線（波線・ぎざぎざ）が1番目、赤線（縦の直線）が2番目に切る。
- ③出来上がったパズルを楽しむ。

（工夫点）

- ・子どもが貼りやすいように、白画用紙は四つ切画用紙を半分にしたバイクの紙より大きいサイズを用意した。
- ・黒線（波線・ぎざぎざ）は1番目、赤線（縦の直線）は2番目にして、切る順番を視覚的に分かりやすいようにした。（星印1の写真を参照）
- ・形が複雑になりすぎないようにと、ピース数が多くなりすぎないようにするため切る線を少なくした。（星印1の写真を参照）
- ・切ったパズルにラミネートをかけ、プラスチック段ボールで厚みをもたせ、パズルを持ちやすいように工夫した。

（使用感・改善点）

○使用感

- ・集中して白だけの部分も形をよく見ながら組み合わせて楽しんで完成させていた。

○改善点

- ・子ども自身が好きな物（食べ物・乗り物）を選ばなかったため、次回やる時は、子どもの好きな物を取り入れようと思う。
- ・赤線（縦の直線）を1番目、黒線（波線・ぎざぎざ）を2番目にして複雑な形を後に切った方がよかった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・個別課題（朝学習も含めて）
- ・自立活動

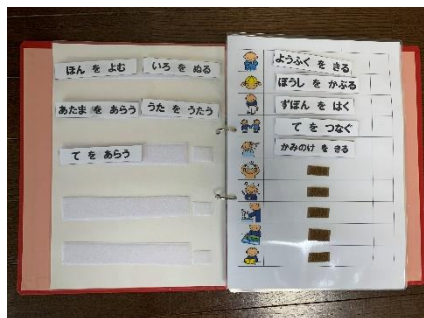
教材名

二語文の構成

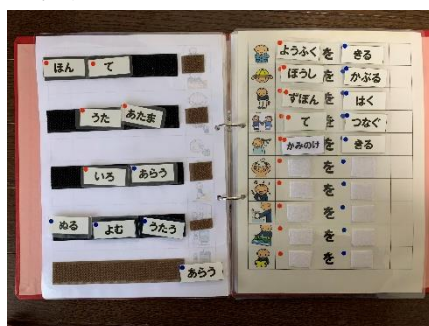
教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点

ステップ1



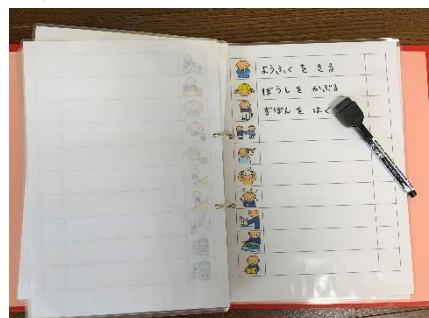
ステップ2



ステップ3



ステップ4



(ねらい)

- ・二語文を理解できる。
- ・正しく言葉を話すことができる。

(使い方)

○ステップ1

- ・絵を見て、それに合った文章カードを選ぶ。

○ステップ2

- ・絵を見て、正しい名詞カード（赤）と動詞カード（青）を選び、文を構成する。

○ステップ3

- ・絵を見て、正しい名詞カード（赤）と助動詞カード（黄）、動詞カード（青）を選び、文を構成する。
- ・できるようになってきたら、シールの手立てを無くす。

○ステップ4

- ・絵を見て、それに合った文章を書く。

(工夫点)

- ・児童の実態に合わせて、ステップを変えて取り組むことができるようにした。
- ・名詞、動詞、助詞ごとに色シールを貼り、どこに貼ればよいか分かるようにした。

(使用感・改善点)

- ・文字カードがたくさんあり、正しいカードを探すのに時間がかかっていた。
- ・文字を書く枠が小さく、書きづらそうだった。
- ・絵を同じ人（男の子）だけでなく、女の子やキャラクター、動物などにする事で、様々な助詞が使え、学習の幅が広がると感じた。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動

教材名

どうぶつかくれんぼ

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- ・色のマッチング、型はめ、平仮名のマッチングをする。
- ・ゲーム感覚で、楽しみながら活動に参加する。
- ・見ている児童も、前に出ている児童の様子をよく見て参加する。

(使い方)

①籠の中から鍵を1つ取る。

②鍵を同じ色のドアや同じ形のカギ穴に当てはめる。

③ドアを開くと動物が隠れているので、平仮名のマッチングをする。

(工夫点)

- ・一つの活動の中に複数の要素(色、名称、型はめ、平仮名のマッチング)を入れることで、実態が離れた児童と一緒に参加できる活動にしたこと。
- ・どの色のカギを引けるかわからないようにしたこと、ゲームのような活動にしたこと。
- ・ドアの中にいる動物をランダムにすることで、自分が開けたところに何がいるか期待感をもてるようにしたこと。

(使用感)

- ・鍵が気に入り、「やりたい」と意欲的に手を挙げる児童もいた。
- ・ドアの中に何がいるのか、楽しみなようで、順番を待っている児童もよく見ていた。
- ・ドアに描かれた鍵の形が遠くから見ると見えにくかったので、色を変えた。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・国語・算数
- ・自立活動
- ・課題学習

教材名

2～6ピースのパズル

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

（ねらい）

- ・絵をイメージしながら組み立てることができる。
- ・線と線の合うところをよく見てパズルのピースを合わせることができる。

（使い方）

- ① 枠の中に下絵をいれる。
- ② 下絵に合うように絵を分割したピースをはめていく。
- ③ 正しい絵が作れたら完成。
- ④ 下絵を出して確認する。

（工夫点）

- ・後ろの下絵を出し入れできる。
- ・児童の実態に合わせて使い分けることができる。
- ・ピースをさらに増やすことができる。

（使用感・改善点）

- ・児童の実態に合わせて下絵を抜いたり、ピースの大きさを変えたりして使い方の多様性を感じた。
- ・枠がしっかりとあるので、ピースが合わせやすそうだった。
- ・ピースの数を増やすほど難易度があがっていた。
- ・たくさんの種類があるので、グループで活動する際、一人一人がたくさんのパズルに挑戦することができていた。
- ・下絵にピース線がないので、ピースを増やし難易度を上げるとき等は、あらかじめピース線があっても良さそうと感じた。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・朝の個別課題
- ・自立活動
- ・算数

教材名

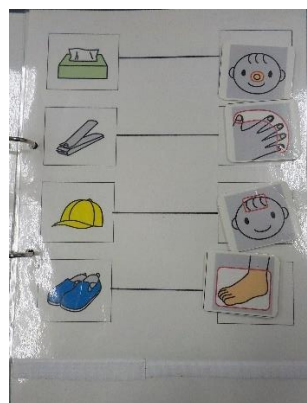
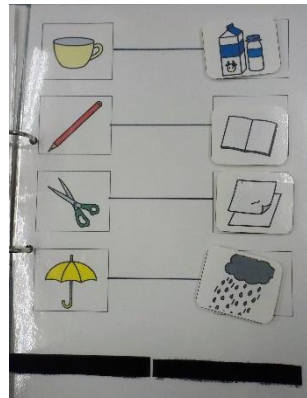
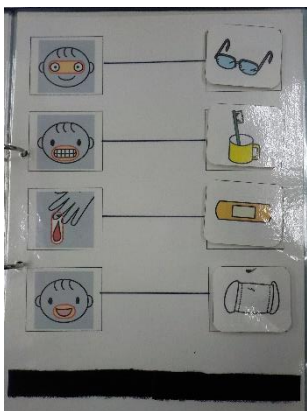
ひらがなをかこう

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
〈※1 使用プリント〉 〈※2 使用している絵本〉 著者：辰見 敏夫 イラスト：いけだ たつこ 発行人：鈴木 雄善 発行所：鈴木出版株式会社 〈※3 名称確認〉	(ねらい) ・ ひらがなに親しむ。 ・ ひらがな一文字に焦点を当てて、書き順・ポイント等を丁寧に学ぶ。 ・ 名称を確認する。 (使い方・授業展開の方法) 1 鉛筆の持ち方の確認 2 日付・曜日・名前を書く。 3 指で文字をなぞる。 4 なぞり・視写でひらがなを書く練習をする。 5 今日学ぶ文字に合わせた絵を4つ答える。(※3) (使用している絵本：※2ひらがなおしえておかあさん) 6 一つ名称を確認しながら、①から④の欄に書く。 (工夫点) ・ 毎回継続して取り組むことで文字に親しむことができる。 ・ 一文字に焦点を絞ることで、書き順・ポイントに着目して取り組むことができる。 ・ 児童の実態に合わせて視写・なぞりに対応することができる。 〈『ひらがなおしえておかあさん』にててくる名称の一例〉 あ：あめ・あひる・あり・あし い：いちご・いのしし・いぬ・いす う：うさぎ・うし・うま・うみ ※児童がわかりやすいように、絵を差し替えすることもあります。 (使用感・改善点) 実践例1 実践例2 〈活用できそうな教科領域および場面〉 ・ 個別課題 ・ 国語

教材名

関連する絵を答えよう

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- ・日常的な経験をもとに、身近な物と物の関係に気づく。
- ・日常生活に必要なものと用途との関連性を結びつける。

(使い方)

- ① 一つずつ絵の名前を確認する。
- ② 「マスク」を提示し、これはどこにつけるのかなと問い、児童が関連した絵の並びに絵を貼る。

(工夫点)

- ・関連する絵をマッチングさせることで、何をいつ使うのか合致させることができる。
- ・日常生活等の関連付けで、多岐にわたって教材を応用することができる。

(使用感・改善点)

- ・使用頻度が高いものには、すぐに選ぶことができていた。
- ・今は一方の絵のみ取り外し可能なので、絵を両方取り外しができるようになれば応用性を広げられることができる。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・日常生活の指導
- ・国語
- ・個別課題

教材名

スーパーひろつかへ ようこそ

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

写真を見て名称を覚えたり生活や買い物学習でも生かしたりできるように、かごに商品を入れるなどのごっこ遊びを通して学ぶことができる。

- ・写真カードを提示して、同じものを選ぶ。

(使い方)

- ⑨ ステンレストレーに置かれた数種類の写真カードを見て、名称を聞いたり、覚えたりしてホワイトボードに取りに行く。
- ⑩ ホワイトボードの横にある、買い物かごを持ってスーパーひろつかへに買い物に行く。児童の実態に応じて、ステンレストレーをホワイトボードの近くにもって行き提示したり、買い物リストに名称を書き入れて持って行ったりする。
- ⑪ かごを店員役の教師に渡して、教師と一緒に答え合わせを行う。
- ⑫ 間違えたときは買い直すようにする。

(工夫点)

- ・写真カードは、児童たちが馴染みのある果物、野菜、家電を用意した。
- ・写真カードは、ステンレストレーやホワイトボードに貼れるように、磁石を裏に付けた。
- ・写真だけではなく名称も平仮名で表示した。
- ・個々の児童に合わせて使用方法を変えることができる。
- ・身近なものだけではなく興味が広がるように、ドラゴンフルーツや加工前の野菜など、慣れ親しみのない写真カードも用意した。

(使用感・改善点)

- ・複数の児童が同時に活動できず、待ち時間が多くなってしまう為、順番をよく考えて行わなければならない。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・日常生活の指導(朝や帰りの課題学習)
- ・生活単元学習、
- ・ことば・かず(グループ学習など)
- ・学活

教材名

カードと洗濯ばさみの弁別

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
 	(ねらい) - 洗濯ばさみを取ることで、指先でつまむ力をつける。 - カードと洗濯ばさみの形や大きさを見て、入る穴の弁別をする。 - スリットをよく見て入れることで、手指の巧緻性を高める。 (使い方) ① 段ボールに色画用紙を貼ったカードに、洗濯ばさみを挟んでおく。 ② 洗濯ばさみをつまんでカードから外し、カードはスリット、洗濯ばさみは楕円の大きい穴に入れる。 (工夫点) - カードと洗濯ばさみのそれぞれの穴のふちに、異なる色で線を引いておくことで、形の違いに注目できるようにした。 - カードには、児童が興味のある文字や友達の名前を書いた。 - かごにカードをまとめて入れておき、無くなったら終わりという達成感をもてるようにした。 (使用感・改善点) - 文字に興味がある児童だったため、洗濯ばさみを外すときに、カードに書いてある文字を読む姿も見られた。 - 児童の興味のあるキャラクターやマーク等のイラストをカードに書くことで、他の児童も活用できる。 - かごにカードを入れておくことで、一人で取り組むことができた。
	<活用できそうな教科領域および場面> - 朝の個別課題 - 自立活動 - ことば・かず

教材名

箱から布を引き抜こう

教材等の写真添付



保存容器のふたにカッターで穴を空けて布を通す。



布を長くすると、両手を使って上に引き抜く姿も見られた。

教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- ・布をしっかり握り続けることで、握力を鍛える。
- ・布を上引き抜くことで、腕や肩回りの筋肉を動かすことに慣れる。
- ・上体の重心が前にかかりやすい児童が、布を引き抜く動作をすることで後ろに重心をかけるイメージをもつ。

(使い方)

- ③ 箱のふたに空けた穴から、何枚か結んで繋げた布の先端を出しておく。
- ④ 布を握り、手を上げて引き抜く。
- ⑤ 実態によっては、反対の手で箱を押さえて一人で引き抜く。

(工夫点)

- ・結び目の部分が穴に引っ掛かるように布を複数枚結び、力を込められるようにした。
- ・繋げる布をカラフルにして、次の布が出てくるわくわく感を感じられるようにした。
- ・児童の実態によって、繋げる布の数を変えた。

(使用感・改善点)

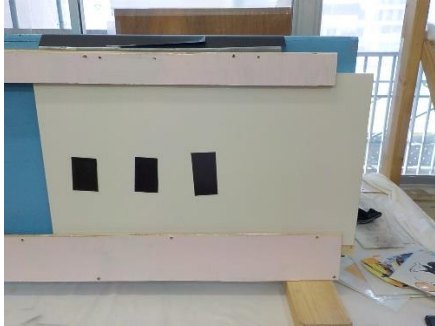
- ・近くで歌ったり、「うんとこしょ、どっこいしょ」と掛け声をかけたりすると、楽しい気持ちで引き抜くことができるようだった。
- ・今回は、両手で持って力を込められるように、布の摩擦が大きいガーゼ布を使用した。片手で押さえながら一人で引き抜くことをねらいとしている児童や、力が弱い児童は、シルク布等の摩擦が弱い布を使ったり、穴の大きさを調節したりすると良い。
- ・児童の興味関心によっては、引き抜く意欲が出るように、布の先端にボールやイラストを付けると良い。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・朝の個別課題
- ・自立活動
- ・学活（お楽しみ会等）

教材名

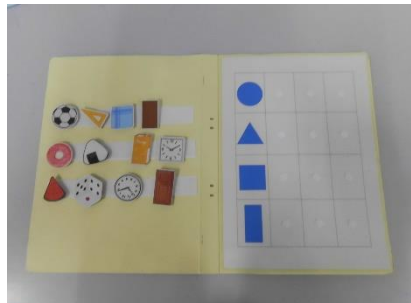
可動式ボード

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
①   ③ 	(ねらい) ・楽しみながら見る力を高める。 (使い方) ①木材でできている可動式ボードの中央の磁石に、イラストや写真カードを貼る。 ・児童机を2つ用意し、その上に置いて使用する。 ②可動式ボードを勢いよく押す。 ・児童が問題者としてボードを押すことも可能。 ③黒い画用紙をめくりあげ、正解発表。 ④可動式ボードを元の位置に戻し、次の準備をする。 (工夫点) ・イラスト等が簡単に付け外しできるように、ボードにもイラストにも磁石を付けている。 ・勢いよく押した先の板にぶつかっても衝撃を少なくするために緩衝材をつけている。 ・布だと、風で揺れて答えのイラストが見えてしまうことがあるため、画用紙で見えないようにしている。 (使用感・改善点) ・可動式ボードが途中で引っかかることがあるので、板の大きさや幅の調整が必要。 ・全体の長さが短めなので可動式ボードの移動距離が短くなる。短いことで操作が難しいことがあるので、もう少し長くして移動距離を長くし、自動で移動する等、より簡単な操作ができるようにしたい。 <活用できそうな教科領域および場面> ・ことば・かず

教材名

どんなかたちかな？

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(ねらい)

- ・形の分類ができるようになる。
- ・一人で取り組むことができる。

(使い方)

- ・左側にランダムに貼り付けられたイラストカードの形を見分けて、右側の形の分類表に貼り付ける。

(工夫点)

- ・ページを開いて、一目でやるべきことが分かるようにしてあること。
- ・身近なものを取り上げて、形を捉えられるようにした。
- ・実物を想像して分類しなくてはいけないものもある。

(使用感・改善点)

- ・手先が器用な児童が使用したので、マジックテープを剥がして貼るのが上手にできた。
- ・手に取ったイラストカードを、右の表にある形に重ね合わせて形を確かめてから貼る、という流れを確認したため、一人で課題に取り組むことができた。
- ・特に三角形は、子供たちの身近にあるものの種類があまりなかったため、想像しにくいものも含まれてしまった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・ことば・かず
- ・個別課題

教材名

はらぺこあおむしで紐通し練習

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

（使い方）

- ・はらぺこあおむしの身体部分（丸部分）を紐に通していく。
- ・初めに身体部分を紐から外していく。
- ・身体部分を全て通し終えたら完成。

（作り方）

- ①真ん中をくりぬいたフェルトを2枚1組で縫い合わせる。
- ②フェルトの中に綿を入れた部分を作り、顔を貼り付ける。
- ③顔部分の裏側に紐を縫い付ける。
- ④紐の先端にフェルトを被せ、縫い付ける。
- ⑤完成

（工夫点）

- ・児童が馴染みのある絵本の「はらぺこあおむし」のキャラクターを題材に作成した。
- ・身体部分を紐から外すとき、持ちやすいように顔部分に綿を詰め、厚くした。
- ・先端の紐がぼさぼさにならないように上からフェルトを被せた。
- ・先端に注目しながら穴に通せるように、紐と先端の色を変えた。

（使用感・改善点）

- ・手元に集中できなかった児童が手元を見て取り組むことができた。
- ・身体部分（丸部分）が柔らかすぎたため、入れにくそうにしている児童もいた。素材を固くした方が持つときに安定してできたと思う。
- ・今後、異なる素材や異なる穴の大きさのものも作成していきたい。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・個別活動
- ・課題学習
- ・日常生活の指導

教材名

とんぼのめがね ～のぞいてみよう～

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点
＜カラーめがね＞  ＜とんぼ（目の部分が透明）＞  ＜空の背景＞  	（ねらい） ・歌詞や情景の変化を楽しみながら、歌に親しめるようにする。 ・目の色の変化に気づき、歌を楽しめるようにする。 （使い方） ・「とんぼのめがね」の曲に合わせて、とんぼが空を飛ぶ様子をペープサートのように見せる。 ・とんぼの目の部分が透明になっているので、空の色の背景に重ねると目が背景と色に変わるようになっている。 ・児童がとんぼのめがねの色を選んで、自分の目に当てて曲や色の変化を楽しむ。 （工夫点） ・目の部分を透明にし、色の変化を分かりやすくしたところ。 ・カラーめがねは、割り箸で持てるようにし児童が体験しやすくしたところ。 （使用感・改善点） ・歌詞に合わせてとんぼを動かすことで、児童が注目して曲を聴くことができていた。 ・カラーめがねを手渡すと、目元にあててなりきって楽しんでいた。 ＜活用できそうな教科領域および場面＞ ・生活単元学習 ・朝の会、帰りの会

教材名

みんなでバースディを祝おう

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(ねらい)

- ・主役は誕生者だが、誕生者以外の児童の祝う気持ちを育てたかった。

(バースディケーキの使い方)

- ① 何も乗っていないケーキを提示する。
- ② 誕生者以外の児童に果物を配る。
- ③ 順番に飾り付ける。

(工夫点)

- ・マジックテープをつけ、果物をくっつけられるようにした。
- ・児童が手作りした誕生カードと同じ果物を乗せるようにした。
- ・いろいろな年齢で使えるように、上にある数字はクリップでつけ外しできるようにした。

(使用感・改善点)

- ・誕生者を祝う気持ちには至らなかったが、これをやったら誕生会がはじまるぞ！という見通しを持つ様子が見られた。
- ・何も無いところから彩られていく様子を見て、気持ちが盛り上がっているようだった。
- ・マジックテープが取れないように縫い付けた方がよかった。
- ・ケーキの側面にも果物をつけられたらよかった。

(ろうそくの使い方)

- 教師がつけたろうそくの火を吹き消す。

(工夫)

- ・ろうそくを刺しやすいように、ろうそくを細くし、台にオアシスを使用した。

(使用感・改善点)

- ・誕生者からも誕生者以外の児童からもキャラクターが見えるように両面にイラストをつければよかった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・学活
- ・自立活動